

愛知教育大学 統合報告書

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

Integrated Report 2023

企業のみなさまに向けて

統合報告書

Integrated Report

2023

企業のみなさまに向けて

- 02 学長あいさつ
- 03 沿革
- 04 ミッションとビジョン
- 05 企業インタビュー
- 07 共同研究・受託研究
- 09 本学の体制
- 10 価値創造プロセス
- 11 未来につなぐ SDGs 特集
- 15 特色のある取組
- 16 未来共創プラン
- 17 財務情報
- 19 愛知教育大学未来基金
- 20 キャンパスマップ



“子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学”を目指して

本学は2023（令和5）年に創基150周年を迎えます。1873（明治6）年に愛知県養成学校として設立され、以来一貫して有為な教員の養成を第一の目的とし、教育研究の充実を図って参りました。

明治の先人たちは、教育を新しい国づくりの礎と考え、近代的な学校制度を整えました。その後、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、世界は加速度的に変化し続けていますが、国づくりの根幹は、今も変わらず人づくりです。他方、新しい時代を切り拓くには、高邁な理想を共に抱く仲間、柔軟で斬新なアイデア、協働してやり遂げる強い意志が必要です。

こうした考えの下、私たちはこれまでに培ってきた教員養成の「知の拠点」としての役割を果たし続けるため、そして本学の取組を未来へとつなぐために、「未来共創プラン」（愛知教育大学中長期ビジョン・目標・戦略）を策定し、現在取り組んでいるところです。

さて、統合報告書とは、売上や資産など法的に定められた財務情報に加え、企業統治や社会的責任、知的財産などの非財務情報をまとめたもので、海外機関投資家が投資の際、企業の社会的責任を重要視したこときっかけにはじめられたものです。日本においても、民間企業から広がり、現在では多くの国立大学でも発行されるようになりました。

このたび、本学でもはじめて統合報告書を作成する運びとなりましたが、これは私たちの取組を広くみなさまにお伝えする貴重な機会であり、たいへん光栄に存じます。今回は、本学の数々のステークホルダーのうち「企業」のみなさまにお目通しいただくことを想定し、作成いたしました。研究大学とは異なり、「企業」との連携になじみが薄い「教員養成」という特性をもった本学にとって、経営基盤を強化し、自律的な大学運営をすることは永らくの課題です。

「企業」のみなさまにとりまして、本学がどのような価値を提供できるのか、どのような共創の可能性が広がっているのか、この報告書を通じてともに考えられたら幸甚でございます。



国立大学法人愛知教育大学長

野田敦敬

創基150周年記念事業ロゴマーク



ロゴのコンセプトは「伝統と共創」です。本学だけでなく附属学校や地域の教育の未来が華やかに開くよう、150の「0（ゼロ）」は花の輪をイメージし、本学の創基となる1873年から共に伝統を紡いできた師範学校・附属学校園・学芸大学の校章を円環状に並べました。校章は頂点から右回りに師範学校と学芸大学、左回りに附属学校園が古いものから順に並んでいます。同一校で校章や名称に変更があった場合にはひとまとめにして各創立年に合わせて並べました。また、「0（ゼロ）」の中心には、本学のシンボルマークの中心にもある「カキツバタ」を配置しました。

本学の淵源は、日本の近代学校の発足と期を一にして、明治6(1873)年に開校した愛知県養成学校に始まります。第二次大戦後の学制改革の中で、昭和24(1949)年5月に愛知第一師範学校、愛知第二師範学校及び愛知青年師範学校を統合し、新制国立大学の一つとして「有為な教員を養成」することを目的に、学芸学部1学部からなる愛知学芸大学が発足しました。昭和41(1966)年には、愛知教育大学及び教育学部に名称を変更し、昭和62(1987)年には、教員養成課程の定員の一部(約40%)を移し、総合科学課程を設置しました。平成16(2004)年、国立大学法人法施行に伴い、国立大学法人愛知教育大学を設立し、現在に至ります。愛知教育大学は、教員養成を行う学校教員養成課程と教育支援専門職養成課程からなる教育学部に加え、大学院では専門職学位課程(教職大学院)、修士課程及び後期3年博士課程を含む教育学研究科を有しています。

明治6年12月
愛知県養成学校

明治9年8月
愛知県師範学校

明治19年8月
愛知県尋常師範学校

明治31年4月
愛知県師範学校

明治32年4月
愛知県第一師範学校

明治45年4月
愛知県女子師範学校

明治32年4月
愛知県第二師範学校

大正7年3月
愛知県農業補習学校教員養成所

大正10年4月
愛知県実業教員養成所

昭和10年4月
愛知県立青年学校教員養成所

昭和19年4月
愛知青年師範学校

昭和18年4月
愛知第一師範学校

昭和18年4月
愛知第二師範学校

昭和24年5月
愛知学芸大学

昭和24年5月
名古屋分校

昭和24年5月
豊川分校

昭和24年5月
安城分校

昭和41年4月
愛知教育大学

昭和25年4月
岡崎分校

昭和27年3月
廃止

昭和45年4月
刈谷市の現在地に統合移転

昭和53年6月
大学院教育学研究科修士課程 発足

昭和62年4月
総合科学課程 発足

平成12年4月
教員養成課程の再編 / 学芸4課程 発足

平成16年4月
国立大学法人愛知教育大学 発足

- 平成19年4月 現代学芸課程
- 平成20年4月 大学院教育実践研究科
- 平成24年4月 大学院教育学研究科 共同教科開発学専攻 (後期3年博士課程)
- 平成29年4月 教育支援専門職養成課程
- 令和3年4月 学校教員養成課程





広域の拠点的作用をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身につけた専門職業人の養成を使命としています。

ビジョン

『愛知教育大学は、子どもと共に、学生と共に、社会と共に、
附属学校園と共に、未来の教育を創ります。』

『未来の教育』を考える上では、これからの未来を担う子どもたちをはじめとした様々なステークホルダーの声を受けとめ、開かれた大学として共に前進していくことが不可欠であると考え、ビジョンに明記しました。

目標 1

子どもや学生、社会との対話や協働を通して、現代的教育課題の解決に貢献し、より質の高い教員及び教育支援専門職の養成を実現します。

目標 2

大学と附属学校園との連携強化を図ることで、より質の高い教員研修を実現します。

目標 3

広域拠点型教員養成系大学としての意義と価値を高めます。



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION



教職の魅力共創
愛知教育大学 未来共創プラン

【第4期中期目標・中期計画】

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/hyoka.html#4>

【未来共創プラン】

<https://www.aichi-edu.ac.jp/cocreate/>

【各ポリシー】

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

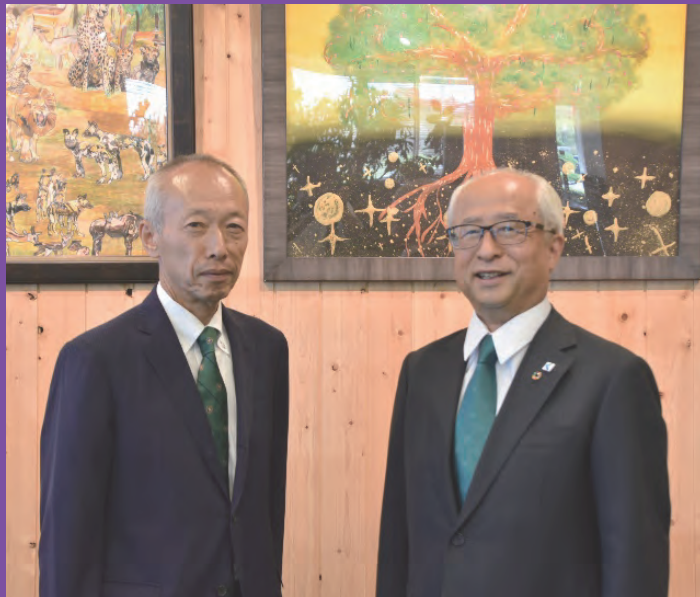


ステークホルダー対談（地元企業）

愛知教育大学学長

野田 敦敬

1983年 名古屋市立小学校教諭
 1997年 愛知教育大学 助教授
 2005年 // 教授
 2014年 // 副学長(カリキュラム改革・大学改革担当)
 2019年 // 理事(教育・学生担当)・副学長
 2020年 // 学長
 <研究分野>
 生活科教育、総合的学習
 <所属学会>
 日本生活科・総合的学習教育学会(第9期会長)
 日本理科教育学会
 日本教科教育学会



角文株式会社
 代表取締役社長

鈴木 文三郎氏

<本社所在地>
 愛知県刈谷市泉田町古和井1番地
 <創業>
 1823年(文政6年)
 <設立>
 1960年8月10日
 <事業内容>
 総合建設業・不動産開発業
 <従業員数>
 136名

本学は、教員養成等の「教育」と「研究」だけでなく、「地域貢献」も本学の重要な使命と考えています。「地域から頼られる大学」として地元企業の方と具体的に何ができるかを考えてみました。

ご自身にとって、愛知教育大学はどのような存在でしたか。

野田 鈴木社長は本学附属高校の第1回生だったと伺っております。

鈴木 実は、愛知教育大学には中学からお世話になりました。附属岡崎中学校です。こちらに行くきっかけになったのは、小学校5、6年生の頃の担任の神谷先生の影響でした。私は、神谷先生が愛知教育大学を卒業されて最初の生徒として2年間受け持ってもらい、その神谷先生の勧めで附属岡崎中学校に行くことになりました。私の人生においてこの地元の刈谷からもう少し広いところへ目を向けさせていただいたという意味で、神谷先生にはたいへん感謝申し上げます。

野田 神谷先生は私もよく知っている方で、それはまた本当にご縁があるお話ですね。

鈴木 当時、中学校というところによっては少し荒れているところもありましたが、附属岡崎中学校はそういうのは全くなく、本当に楽しい学校生活を送らせていただきました。生徒と先生の仲が非常に良く、今でも毎年クラス会をやっており、その後の私の人生形成において大きなポイントとなっております。

野田 私も実は6年生の頃の担任から影響を受け、教員になりたいと考えるようになりました。そのぐらいの年齢というのは、非常に大事な時期ということですね。

その後、附属高校に進学されて、ここが新設でまだ校舎が完成しておらず、大学の校舎で授業を受けたとお聞きしております。

鈴木 最初の年は、一般公募はせず、附属名古屋中学校と附属岡崎中学校から半々の生徒が進学してきました。今の校舎が建設中でしたので、1年間は制服もなくて、みんなそれぞれの制服で過ごし、教室も大学の教室をお借りして2年生で引越した記憶があります。当時は大学の生協を利用したりもしまして、大学キャンパスもたいへん懐かしく感じます。



ご自身にとって、大学での経験は今どのように生きていますか。

鈴木 大学では商学部の経営学ゼミに入りました。家業が建設業であったので、高校の最初の頃は建築の方面へと考えていたのですが、1年生の時に自宅に半年間アメリカ人の交換留学生がホームステイしまして、彼の影響で英語に興味を持ち、父とも相談して経営を勉強した方が良くだろうということで、商学部に進みました。大学で学んだこと

が今役に立っているかというのは正直わかりませんが、東京へは一度は出てみたいなという思いがあって、学生生活4年間、その後就職で3年間東京に出ましたので、合計7年間出ましたけれど、やはり日本で最先端の町に身を置いたということは今につながっているという感じがします。

鈴木 また、刈谷に戻る前に半年間ハワイにあるビジネススクールに行きました。日本企業が設置したところで、日本から学生が行ってアメリカ的な経営を研究し、アメリカからも学生が行って日本的な経営を研究するということでした。その頃、日本の企業はシェアをいかに伸ばすかとか、売り上げをいかに伸ばすかということに重点を置いていたんですけども、アメリカ的な経営というのは、投資した金額に対してどれだけリターンを得られるかということを重視していました。また、ハワイの土地はほとんどが元々王様のものです。その土地は財団が管理していて、ワイキキのホテルなどは定期借地権で運営されており、結果として、私が日本で最初の

定期借地権のマンション事業に乗り出すのに大変参考になりました。その時の仲間とも 23 人ぐらいいい、今でも良いおつきあいをさせていただいており、とても良い経験になりました。

野田 そうやって仲間づくりと言いますか。人付き合いをうまく、長くやっていくポイントは何かでしょうか。

鈴木 私は友達を決して多くはないんですけども、自分にとって大切だと感じた特定な人とは誠実に付き合ってきたつもりです。

この地域の子もたちにどのような大人になってもらいたいですか。

鈴木 感性豊かな人間に育ってほしいなと考えております。毎年、本社近隣の川の環境学習を小学生としており、愛知教育大学の学生さんにも協力いただいております。そこで何をやっているかという、川の中のゴミを子どもたちに拾ってもらって、そのゴミを大人が捨てたものか、子どもが捨てたものかに分けてもらっています。そうすると、圧倒的に大人の捨てたゴミが多いんです。子どもたちに聞くと、お父さんお母さんがいつもゴミを捨てちゃいけないと言っているのに大人のゴミが多いのはなぜだろうと口にしめます。そういうことを実体験として感じてもらい、感じた子は将来大人になっても絶対にゴミを捨てないでもらえますよね。そういうことを受け取ってもらって、社会に返す豊かな人間になってもらいたいと考えます。

あと、社員の採用活動を通して感じているのですが、最近の学生さんたちは自分が社会の役に立ちたいとか、人のためになりたいとかというのを本当に真剣に考えており、私どもがやっている CSR 環境活動とかアティックアートの活動にとても共感してくれて、人材が集まってくれています。これはたぶん震災とかいろいろな社会的出来事があった影響もあるのでしょうか、本当に自分が社会のためになりたいと真剣に考えているからで、日本の教育の素晴らしさというか、教育してみえる先生方のおかげで今の若い子たちがそういうふうになってきているのかなと感心しています。

野田 しかしながら、今、教師のなり手がとても減ってきてしまっていて、教師不足が社会問題化しています。やはり教員の人気がないと良い子どもは育たないと思うのですが、そういう状況についてどうお考えになりますか。

鈴木 巷に聞くのは職場環境的に非常に残業が多いとかで、休みが取れないとか、そういうのは我々の建設業界も似たようなところですが、それは何とか改善していかないといけないところですね。



2022年6月1日 刈谷市逢妻川
角元株式会社による環境活動「川の環境学習」が富士松南小学校4年生を対象に実施され、本学が活動支援を行いました。

愛知教育大学に期待するものは何でしょうか。

鈴木 刈谷商工会議所の副会頭もやらせていただいているのですが、例えば商工会議所と大学とがコラボレーションして何か新しいお互いにとってプラスになれることをやれないのかなと考えます。

また、刈谷ハイウェイオアシスでも運営会社の役員をされていて、愛知教育大学の学生さんにたくさんアルバイトで働いてもらっていて、お世話になっていますが、あそこは本当にたくさん人が集まる場所ですので、うまく活用してもらって社会とつながる場所にしてもらえるとういと思います。

野田 実は、本学の当初の構想では愛知教育大学、洲原公園、刈谷ハイウェイオアシス一帯を子どもキャンパス化するようになっておりまして、今のところ学内に留まっているのですが、心強いお言葉をいただきました。

鈴木 刈谷ハイウェイオアシスには雨がしのげる広いスペースがあるので、あそこをうまく活用していただいて、社会とつながる場所の一つとして使っていただくとよいのかなと思います。

あと、既にやっているかもしれませんが、社会人の学び直しみたいなものも期待するところです。

野田 公開講座については既にいくつかやらせていただいております。刈谷駅にある刈谷市総合文化センターで私も講師を担当したことがございます。

本日は、なつかしいお名前も聞け驚きましたが、たいへん良い機会だったと思います。ご多用の中、誠にありがとうございました。



～ 教員養成系大学としての共同研究・受託研究 ～

教員養成系大学だからこそできる共同研究・受託研究に取り組み、教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。

「デジタル教科書などの教育のICT化の諸課題と改善について」をテーマに

本学外国語教育講座の建内高昭教授が、教科書会社との相互連携協定に基づき共同研究を行いました。この共同研究は、GIGA スクール構想が進展していく中で、指導者用・学習者用デジタル教科書・教材の授業における活用方法の開発並びに使用感の改善を提案し、次世代の教育に関する研究を進め広く教育界に寄与することを目的としたものです。



外国語教育講座 建内高昭 教授



建内教授のコメント

学習端末で使うデジタル教科書は 2024 年度に小中学校の英語から最初に導入されます。デジタル教科書の導入により板書中心の英語授業からの転換につながります。音声・動画を自ら選び、授業や家庭学習で視聴できます。自ら課題を見つけ解決できる経験が今後の次世代の育成、さらには教員養成に寄与すると期待されます。



デジタル教科書を活用した授業実践の取組

教員養成系大学ならではの共同研究への参画

共同研究の一環として、建内教授の授業を受講した学生が遠隔授業を視野に入れ、既存のデジタル教科書のコンテンツ活用例、コンテンツ内の機能をより使いやすくするための改善案、使ってみたいコンテンツの提案などをそれぞれの視点で企画し、教科書会社担当者へ向け、プレゼンテーションを行いました。このことは、将来教員を目指す学生にとって、いち早くデジタル教科書に触れ、学校現場での授業実践のイメージ作りができ、この共同研究を通して良い学びの機会となりました。

「筆答テストの採点支援システムを用いた教員の働き方改革の効果測定と、テスト返却時における学習指導の取組の変化について」をテーマに

企業が開発した採点支援システムを使用し、本学附属学校教員が企業と共同研究を行っています。この共同研究は、本学附属学校で行われる筆答テストの採点業務に対して、採点支援システムを用いた場合、採点業務を担当する教員の作業負担がどの程度軽減されるか、及び採点支援システムを用いたテスト採点業務を通じて、テスト返却時における学習者への学習指導が手作業による採点作業時と比較してどのように変化するのかを明らかにすることを目的としています。

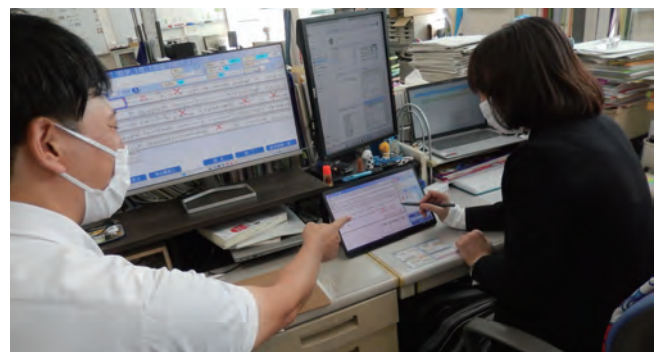
西牟田校長のコメント

令和6年度3月末までを研究期間とし途中段階ですが、附属高等学校の西牟田校長は「採点支援システムの活用によって採点や集計にかかる時間がかなり縮減できており、

その分の時間を学習指導や生徒との対話に回すことができるので、先生方の期待はとても大きいものがある。」と述べています。

野田学長のコメント

小学校教員であった学校現場をよく知る野田学長も「学校では以前から観点別の評価が行われており、手書きの回答をデータ化して採点を支援するシステムは教師の働き方改革に大きく貢献するものだと思う。」と、この共同研究の成果に期待しています。



教員同士、相談しながらシステムを使っている様子

～産官学連携を推進し地域に貢献できる大学でありたい～

本学には、多様な教員が教育諸科学をはじめ、人文、社会、自然、芸術、保健体育、家政、技術分野の諸科学及び教育実践分野に在籍しています。ここでは、教員の研究シーズを紹介します。

研究テーマ：

日本語に潜む「無意識の思い込み」の意識化を促す

キーワード：ジェンダー、無意識の思い込み、意識化

次の表現にはどのような「無意識の思い込み」が潜んでいるでしょうか。

- ・「女性でも食べやすい一口サイズ」
- ・「女性ならではの感性で新しい風を吹き込みたい」
- ・「重い荷物の上げ下げなど、男性ならではのサービス」
- ・「男性でも経済的に困窮する恐れが高い」

私たちが普段目や耳にする日本語には、「女らしさ」や「男らしさ」といった人々が持つ無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が潜んでおり、人々に気づかれることなく長年使い続けられているものが多くあります。

しかし、日常使うことばは人々が潜在的に持っている考え方に大きな影響を与えることから、ことばの中の男女の不平等は社会における男女の不平等に結びつくと考えられます。

研究テーマ：

子どもや保護者の月経観・健康課題に関する研究

キーワード：学校保健、健康科学、月経教育、月経観、水泳

現在は、月経とうまく付き合うための様々な選択肢があります。男女ともに活躍する社会の実現に向けて、月経問題に対し、学校教育はどうあるべきでしょうか。

近年、月経や女性ホルモンに関する情報に触れる機会やフェムテック製品などが増えつつありますが、「月経による体調不良は我慢すべきもの」、「月経中はプールに入ってはいけない」など、月経に対する誤った考え方や情報が未だ散見され、多くの女性が月経問題を“タブー”や“ネガティブな姿勢”で捉えているのが現状です。月経とうまく付き合うための様々な選択肢があるにも関わらず、学校の授業でも対処法は十分に取扱われていません。

そこで、まずは日本の教育現場の現状を把握し、月経用品から薬の選択、あるいは月経に関して不安なく過ごせる環境づくりなど、学校や社会があらゆる選択肢を作り、示すことも重要



日本語教育講座 准教授

加藤 恵梨 (KATO Eri)

研究分野：日本語教育、日本語学



よって、まずは、それらを意識化することが重要です。本研究では、新聞記事や雑誌、広告、教科書といった身近な言語資料を分析することで、無意識の思い込みを指摘し、人々が持つ意識の改革を促すことを目的としています。

共同研究等に向けたアピールポイント！

男女平等の世の中になりつつあると言われ、新聞でも差別用語の不使用など見直しが進んでいますが、現代においても気づかれにくい部分で、無意識の思い込みが存在し続けています。このような実態を意識化し、人々が無意識に抱えている日本（語）社会における女性像・男性像について改め、より良い社会の実現に取り組んでいきたいと思っています。



保健体育講座 助教

村松 愛梨奈 (MURAMATSU Erina)

研究分野：学校保健、健康科学



と考えます。そのために、私たちは児童・生徒・学生・保護者を対象に自分の体調への理解や月経に対する考え方や困りごと、さらには「水泳 × 月経」をテーマに調査研究を進めています。

共同研究等に向けたアピールポイント！

男女ともに活躍する社会では、互いの心身を理解し、心身の困りごとに前向きに対処できる人材の育成が大切だと考えます。まずは、子どもや保護者・教師たちが「月経」に対して前向きに関われる学校や社会を目指して、一緒に教育研究に取り組みませんか。

水泳や月経はもちろん、これまでの研究テーマであるエネルギー代謝や健康障害に関わる困りごと等があれば、お気軽にご連絡ください。ぜひ、お話ししましょう！

- 本学のモットーでもある「地域に頼られる大学」を目指す役割の一端として、産官学連携における共同研究・受託研究を推進していきます。
- 共同研究・受託研究の実施にあたり、財務・学術部 学術研究支援課に窓口を置き、地域や企業のニーズと本学における研究シーズのマッチングの支援を行います。
- 各教員の研究分野、対応する SDGs などは「研究者総覧」から検索することができます。

研究者総覧 WEB サイト



<https://souran.aichi-edu.ac.jp>



共同研究等申込 WEB サイト



<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/research/sangakukanrenkei.html>

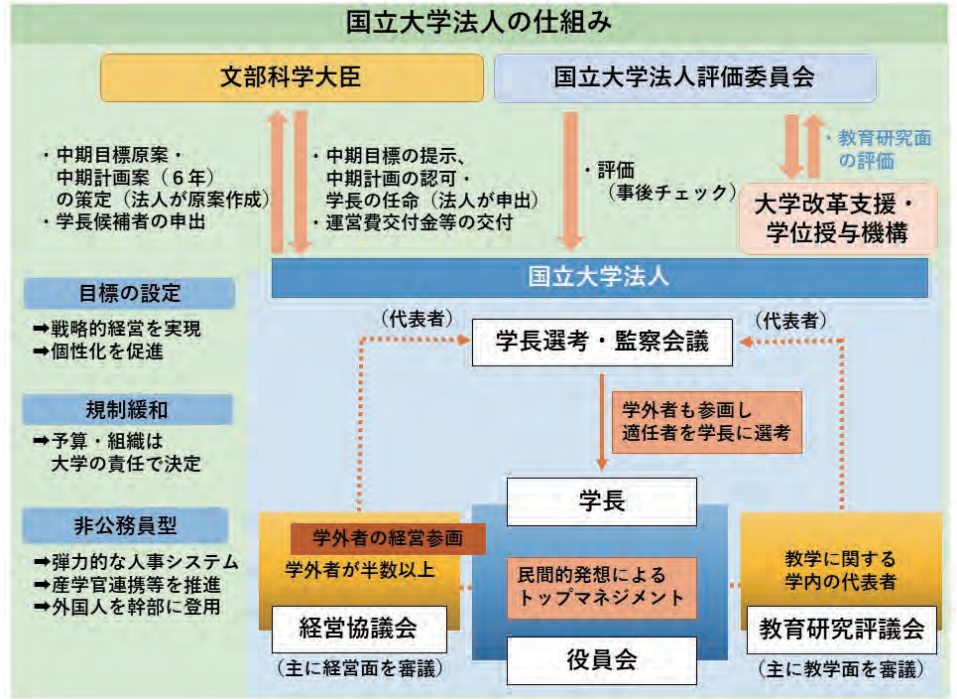


本学との産官学連携の糸口としてご活用ください。

ガバナンス体制

本学では、業務方法書に基づき、内部統制規程において、内部統制に関する基本事項を定めて、法人における業務の有効性及び効率性の向上、法令等の遵守の促進、資産の保全並びに財務報告等の信頼性を確保するため、同規程において、「内部統制システム」を構築しています。また、同規程第3条第1項で、「法人に内部統制委員会を置き、役員会をもって充てる」と規定し、また第2項では当委員会は、「内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、必要な改善策を検討する」と規定しています。この規程に則り、内部統制の実効性を高め、法人経営の見直しに活かす体制を構築しています。

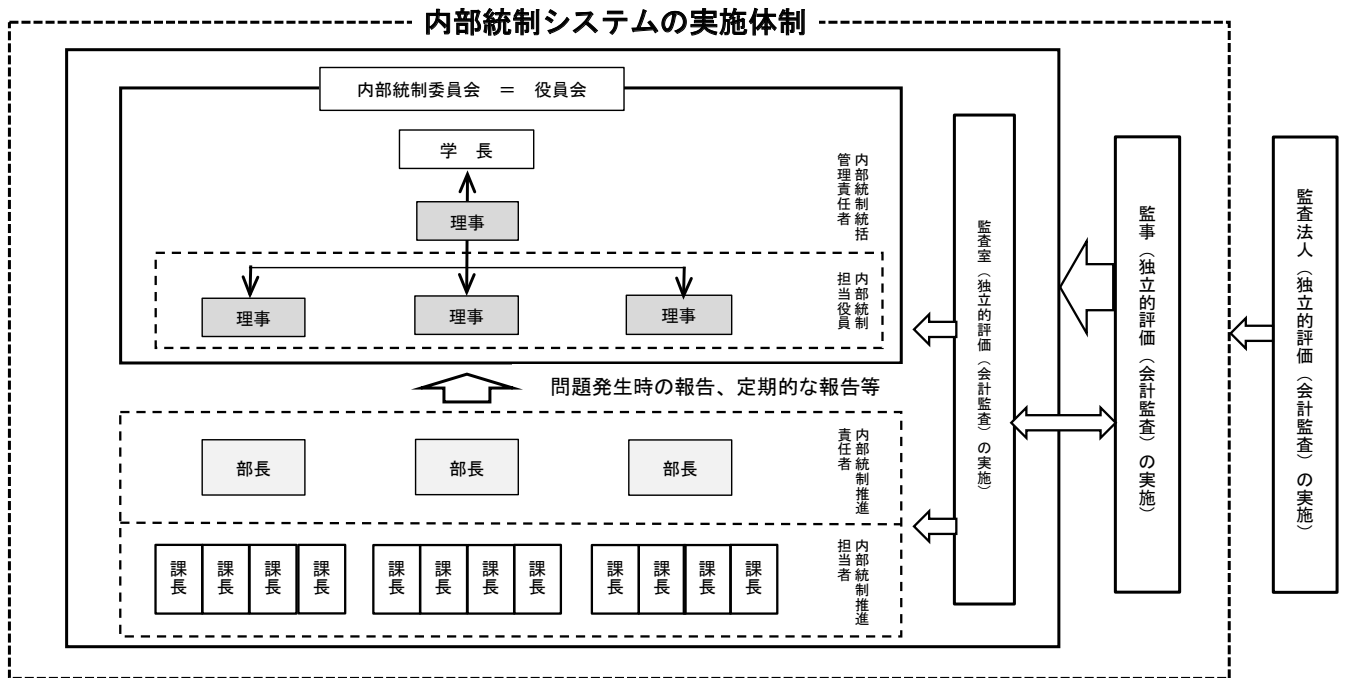
なお、「業務方法書」及び「内部統制システム」は本学 WEB サイト中の「大学紹介 / 法人概要」ページで公表しています。



<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/control.html>



内部統制



本学では、業務方法書に基づき、業務の適正を確保するための体制を整備・運用するため、内部統制規程を定めています。内部統制規程において、法人における業務の有効性及び効率性の向上、法令等の遵守の促進、資産の保全並びに財務報告等の信頼性を確保の4つの目的を掲げ、上の図に示す体制で、内部統制体制を整備しています。

財務資本

- 令和5年度予算額 85億6,500万円
(うち運営費交付金 45億5,100万円、授業料等自己収入 25億4,500万円、施設整備費 6億3,200万円、繰越金 1億5,500万円、補助金 5億6,500万円、外部資金 1億1,700万円)
- 敷地総面積・・・636,466㎡ (うち大学 443,782㎡、附属ほか 192,684㎡)
- 建物述面積・・・133,027㎡ (うち大学 86,264㎡、附属ほか 46,763㎡)

知的資本

- 教育学部、大学院教育学研究科、特別支援教育特別専攻科
- 附属図書館 (蔵書 615,498冊、雑誌種類数 10,635)、障害学生支援室 (コーディネーター 2人)
- センター (教職キャリアセンター、教育研究創成センター、教育臨床総合センター、国際交流センター、地域連携センター、科学・ものづくり教育推進センター、健康支援センター、ICT教育基盤センター、キャリア支援センター、日本語教育支援センター、インクルーシブ教育推進センター)
- 附属学校 (幼稚園 1、小学校 2、中学校 2、高校 1、特別支援 1)

人的資本

- 役員 8人、大学教員 201人、附属教員 185人、事務職員 148人
- 学部学生 3,726人、大学院生等 240人、附属学校生 2,544人 (全体のうち外国人留学生 66人)

社会・関係資料

- 海外交流協定数 27機関
- 包括協定 6機関、連携・協定等 88機関 (うち教育委員会 47、自治体 3、大学・企業 33)、その他 5

第四期中期目標・中期計画

未来共創プラン

人材養成機能等を活用して、地域の産業の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地域の教育界や産業界をリードする。

- 教育現場のスクールリーダー (校長・教頭等) や外国人児童生徒等教育を担当する教員向けの研修を毎年度実施し、毎回受講者及び受講者が所属する教育委員会からのアンケートを通じてブラッシュアップする。
- 地域のケーブルテレビと教育委員会と大学の連携体制を第4期中期目標期間最終年度までに愛知県内の三河地区・尾張地区に1つずつ以上拡大する。
- 「子どもキャンパス構想」に学外から参加した児童・生徒・教員・保護者等の数が、第4期中期目標期間中で1万人以上にする。また、「子どもキャンパス構想」で整備された教育実践フィールド・教育実践プログラムの成果を、教育実践教養科目1科目以上の改善に結び付ける。
- 次世代型教科横断探求プログラムの開発・実施状況に関する成果と課題を明らかにした論文を第4期中期目標期間最終年度までに3本以上発表する。

深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせる等アカデミアのみならず、産業界等社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。

- 博士 (教育学) 学位授与者数を各年度 2.5人以上にする。
- 大学院学生の発表業績数を各年度 30本以上にする。

当該職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、教育課程を高度化することで、当該職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。

- ICTを活用した授業実践力を育成する科目群の再整備により新設・質向上した授業科目数を30件以上にする。
- 学部教育課程の履修により、学生が卒業時に回答する「教員のICT活用指導力チェックリスト」の合計得点を (64満点中) 56点以上にする。
- 愛知県、名古屋市の教員採用者数における占有率を各年度 23%以上にする。

学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。(附属学校)

- 大学と附属学校園が連携した先導的な教育モデルの学会での発表回数等を年平均 10件以上にする。
- 研究会等に参加した他校の教員を対象に追跡調査を行い、当該研究内容を活用した実践事例を毎年度公表する。

～ SDGs 達成へ担い手を育成～

子どもたちには素敵な未来を残したい。この目標を達成するためには一人ひとりが行動に移していくことが必要です。

教育は未来への最大の投資とも言われます。SDGs 達成の鍵は教育にあると言えるかもしれません。

教育大学として、SDGs や ESD 教育について知る機会の拡大に力を入れています。



SDGs 推進に向けた出前授業



本学では、本学学生団体のうち主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究及び社会貢献活動に貢献している団体を「AUE パートナースHIP団体」（以下 PS 団体）として認定する制度を 2017 年度から設けています。

PS 団体の一つとして 2022 年に SDGs の普及・啓発を推進する学生団体「SAGA（サーガ）」が認定されました。「SAGA」は、コロナ禍が始まった 2020 年に学生が「こんな状況だからこそ、学校教育で SDGs を考え、進めていこう」

と立ち上げた団体で、子どもたちの身近な自然や環境を題材とした楽しく学べる教材の開発やそれをもとにした地域の学校における出前授業に取り組んでいます。

2022 年は小中学校での出前授業に加え、本学地域連携センターが主催や出展するイベント 5 件に企業とも連携して、参加しました。さらに、本学が所在する愛知県の西三河地区の学校に SDGs を楽しく学べるカード教材を提供するために 2023 年 3 月から 4 月にかけて実施したクラウドファンディングには、目標額を上回る 113 万円のご寄付があり、SDGs の教育を広める一つの目標を達成しました。

子どもたちが分かりやすく SDGs を学ぶ機会を創出する、この学生の主体的な取組は、持続可能な社会の創り手を育む本学の特徴ある活動となっています。

学校現場でもどのように分かりやすく子どもたちに SDGs について考えさせるか試行錯誤の段階にあります。今後も、開発した教材を学校現場に届け、質の高い教育を広く社会に届けることで、誰一人残されない、誰一人残さないグローバル社会を目指す一員として邁進していきます。



防災コミュニティの推進



大学生は、地域を変える大きな力を持っています。そして、一人ひとりができることは限られていても、人とつながることで大きな原動力となります。地域とつながる本学学生団体「かきつばたの民」の成立のきっかけは、井ヶ谷町の運動会に一人の学生が参加したことから始まりました。地域の方から「大学生を応援したい。行事に若者が参加するにはどうすればいいのかわからない」という話を聞いたその学生は、コロナ禍で学生同士のつながりが薄くなっていたこともあり、下宿生を中心として地域と繋がり、地元から離れた地でも安心して暮らせるような学生の集まりを作ろうと「かきつばたの民」を立ち上げました。

「かきつばたの民」は、普段は井ヶ谷町の自治会など地域の団体主催のほたるの放流会や芋の苗付けなどの多世代交流行事に参加しています。中でも、特に力を入れている行事が「防災運動会」や町内の避難場所として指定されている本学をコースに含んだ「新春ウォーキング」といった防災に関する活動です。「防災運動会」では町内会体育部を中心に 2020 年度より「かきつばたの民」と連携し運動会の防災競技を開発するなどの実践を行い、内閣府の事業である「防災教育チャレンジプラン」で 2022 年度に防災教育優秀賞を受賞しました。



また、「かきつばたの民」は、本学における子どもキャンパスのイベント時に、防災かまどベンチで竹飯ごう体験を企画し実施するなど、子どもたちへも防災意識を高める活動にも取り組んでいます。

「地域を知らない大学生活はもう想像できません」と学生が話すように、地域と学生があらゆるイベントの機会を通じて、協力し合える関係を築いており、いざというときの迅速でスムーズな防災活動にも期待ができます。

「ひろがれ！いろとりどり」総合的な学習の時間（附属名古屋小学校）



附属名古屋小学校 4年生が、総合的な学習の時間に SDGs について学んだ様子について紹介します。



SDGs についてみんなに伝えよう

自分たちにできそうなことを考えた4年生の子どもたち。次は、学んだことを伝えたいという思いが強くなりました。伝える相手を2年生に設定し、「地球温暖化について伝えたい」「絶滅危惧種について知ってもらいたい」など、それぞれが伝えたい内容についてスライドを作成しました。2年生にも分かりやすいように、表現を見直したり、クイズを交えたりするなどの工夫もあり、実際の発表では2年生が真剣なまなざしで参加していました。

SDGs について知ろう

子どもたちとSDGsとの出会いは様々です。何となく知っている子。聞いたことのある子やない子。そんな4年生の子どもたちが、授業を通してSDGsについて調べたり、考えたりすると、自分たちにもできそうなことが見えてきます。そこで、SDGsをすどろくを使って、「食べ残しを減らそう」「ごみの分別をきちんとしよう」など、学校の中にある解決できそうな問題を探し、解決方法を考えました。



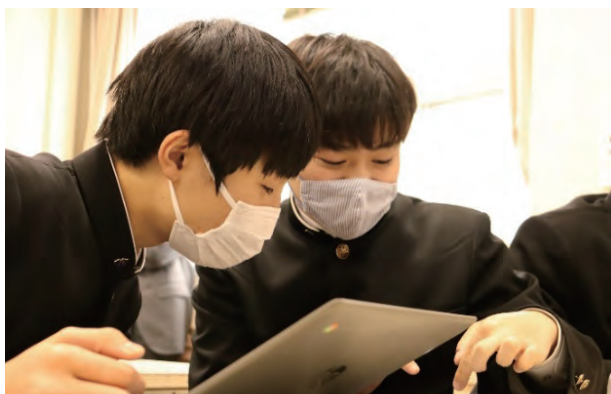
生活教育を基盤とした問題解決的学習とESD（附属岡崎中学校）



附属岡崎中学校では、生活教育を基盤とした問題解決的学習過程による授業を通して、子どもの問題解決力を高めることに力を入れています。これは、持続可能な社会づくりの担い手を育てるESDのねらいにも適っており、各教科や学年で取り組んだ数ある実践から2つの取組を紹介します。

◆ジェンダー（2年 技術・家庭科/家庭分野）

ジェンダー意識がどうつくられるのかを調べる中で、子どもは、幼少期から男女を区別するように刷り込まれてきたことを認識しました。そして、「性別とジェンダーをどう分けて考えればよいのだろうか」という問題を見だし、追究を進める中で、名簿や順番などの環境と、家族や先生といった周りの大人のふるまいが重要だと考え、また性について、生活や命に関わる区別の必要性を感じ、性に関して必要なことは伝えつつ、ジェンダーバイアスを植え付けない教育の在り方を考えることに至りました。



◆観光事業と国際理解（3年 社会科）

インバウンド観光事業に着目し、「愛知県が外国人の人に発信すべき観光コンテンツは何か」という問題を追究しました。生徒たちは、はじめに外国人観光客を増やすために、体験・自然・食を発信すべきだと考えました。その後、外国人の人との交流を通して、物を売るのではなく、愛知にしかない体験・経験型コンテンツの維持と消費促進が、地域住民との交流を生むということにも気づきました。そして、文化交流など、愛知の独自性を生かす必要性を観光協会へ提言することにつながりました。

私たち附属岡崎中学校では、「よりよい社会を自分たちの手で実現したい」という夢を子どもが抱くことが、「持続可能な社会」の実現につながると考えています。これからも、生活教育を基盤とした問題解決的学習過程による授業実践を展開し、三河地区、愛知県、更には全国へと広く実践を紹介することを通して、附属中学校にできるSDGsのゴール達成に向けた活動を行います。

～カーボンニュートラル達成を目指して～

大学施設の中長期的計画（キャンパスマスタープラン等）において、カーボンニュートラル達成の取組を、全学的な取組として位置付け、大学の優先的な課題として取り組んでいます。設備や建物の省エネ改修といったハード面だけでなく、教職員や学生への啓発活動などのソフト面も含め、総合的に取り組んでいます。



カーボンニュートラル達成に向けた進捗状況



◆ハード面（設備・建物改修）での対応

建物の大規模改修等において、積極的に省エネ改修（省エネ機器の導入・建物の断熱化等）を行っています。

直近では、2021 年度に保健体育棟と養護・幼児棟、2022 年度には音楽棟の改修を行い、省エネ機器（LED 照明及び高効率空調）の導入及び断熱ガラスによる建物の断熱化を実施しました。これらの取組により、「教育研究環境の向上」と「省エネ化」の両立が図れました。2023 年度は、特別支援教育棟の改修を予定しており、引き続き、省エネ改修を推進していきます。



LED 照明



高効率空調



(2021 年度)
保健体育棟改修



(2021 年度)
養護・幼児棟改修



(2022 年度)
音楽棟改修

◆ソフト面（啓発活動等）での対応

カーボンニュートラルの達成を実現するために、建物を利用される方々、一人ひとりの省エネへの取組が、省エネ改修と同様に重要と考えています。

2023 年度では、例年以上に身近な節電を一人ひとりが実施できる環境作りを全学規模で推進しています。例えば、節電啓発ポスターを大学随所（附属学校含む）に展開するだけでなく、節電の取組や成果を表彰する「節電の取組大賞」の応募や帰宅時に身近なコンセントを抜く等「待機電力削減キャンペーン」など、学長をトップとした省エネ活動を実施しています。

緊急 節電対策中!

※料価格高騰により、本学の電気料金が大幅増加中です。今年度、本学独自の節電対策を実施します。

1. 夏季一斉休業日を設定します。
〔法人が指定する夏季休業日6月14日～16日に加え、8月17日と18日も休業日とします。〕
2. 講堂の使用を制限します。
3. 学内イベント時、図書館を閉館します。
〔大学祭・こどもまつり・スポーツの祭典・科学ものづくりフェスタ〕
4. 本部棟（中経周）に一斉在宅勤務日を設定します。
5. 待機電力を削減します。
〔「ブレーカーOFF」または「適切なコンセントの電流プラグ抜き」をします。〕
6. 取り組みの好事例を表彰します。

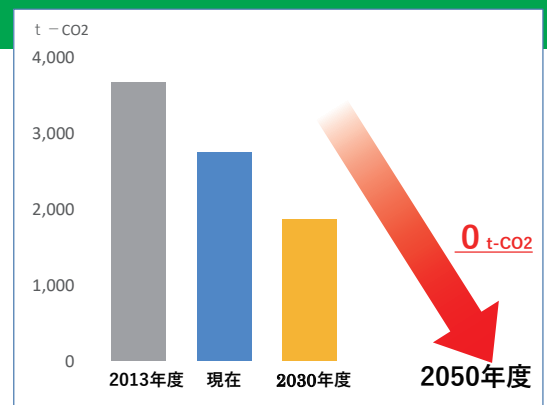
電気の無駄使いは NO～ぞ目 (電)

(省エネ啓発活動) 節電ポスター

◆カーボンニュートラル達成に向けた推移

政府が目標に掲げる 2050 年度までのカーボンニュートラルの達成に向け、本学においても検討を進めています。本学では、2020 年 10 月の政府宣言に準じ、2030 年度までに、2013 年度より 51%以上温室効果ガス排出量を削減する中間目標を掲げ、2050 年度にカーボンニュートラルを目指す計画としています。

本学の温室効果ガス排出量は、2013 年度と比べ、「省エネ改修」や「省エネ啓発活動」の効果により、順調に減少してきており、引き続き「ハード面（設備・建物改修）」と「ソフト面（啓発活動など）」の両面から省エネを推進し、カーボンニュートラル達成を目指します。



(省エネ計画) カーボンニュートラル達成の推移

～多様性で未来に繋げる～

組織に集まる個が多様であり、組織としても多様な関係性を築くことは新たなイノベーションの原動力となります。そこで本学では、地域共生社会の実現・教員養成大学ならではの国際協力にも取り組んでいます。

障害者雇用の理解と対応に関する勉強会



7月19日、本学にて「障害者雇用の理解と対応に関する勉強会」を開催し、45名の教職員・学生が参加しました。

本勉強会は、障害者雇用促進法等の基礎知識を学ぶとともに、就労支援のプロセスや障害特性と職業的課題を踏まえた受け入れ側としての対応方法について学び、考えることを目的として開催しました。

●講演1「障害者雇用に関する基礎知識及び就労支援施設の取組」

講師：特定非営利活動法人くるくる

川村 顕治 氏、村瀬 寿子 氏

法律に定められている基本理念や法定雇用率など及びその事項に対して事業主などが行うべき活動・支援について、国立大学法人や企業などの現状も踏まえ、分かりやすく説明いただきました。また、特定非営利活動法人くるくるで行っている就労支援事業についてご講演いただき、特に、就労移行・定着支援について、「働く姿勢、働く態度・人との関わり、働き続ける体力・気力」をテーマとしたトレーニング・支援内容を写真なども踏まえて詳細に説明いただきました。

●講演2「九州大学伊都キャンパスにおける障害者雇用の取組」

講師：国立大学法人九州大学 事務支援センター エコセンター

岡崎 勝彦 氏

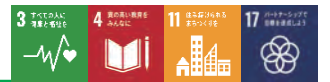
九州大学エコセンターにおける障害者雇用の拡大や作業事業の充実などの取組に至るまでの苦労話・成果、学内構成員にその活動を理解してもらうための働きかけや障害者雇用に関する思いについて、取組時の写真や教職員の反応も含めて分かりやすく、そして熱く語っていただきました。

障害者雇用において、受入側全ての構成員がその基本理念を理解し、苦手なことをカバーしあいながら、障害を持つ職員が強みや特性を生かした仕事をできる環境を整える重要性について学んだ勉強会となりました。

「この子らを世の光に」という糸賀一雄氏の言葉を心に刻み、障害の有無に関わらず、全ての人が働きやすい職場・社会をつくるために、今後も様々な活動に取り組んでいきたいと考えています。



カンボジア国立教育研究所とタッグを組んだ健康教育支援



本学は2014年から2019年にかけて、文部科学省国立大学改革強化推進補助金及び本学機能強化経費の支援の下、カンボジアの子どもたちの健康教育推進を目的に、身体測定の普及支援や食育教育、学校給食の効果の検証を継続して行ってきました。

具体的には、カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省 (Ministry of Education, Youth and Sport: MoEYS)、カンボジア国立教育研究所 (National Institute of Education: NIE) と連携して、その意義や測定方法を伝えるワークショップや約1万人の小・中学生の身体測定を実施することにより、発育状況の地域差や学校給食の効果を検証してきました。現地では日本で一般的な測定機器は入手しにくいいため、今後のカンボジアでの健康教育の普及を見据えて、体重測定には現地で購入できる米穀計量用の秤、身長測定には教師用の大型三角定規を使用しました。これらの取組の成果は、国際的学術論文として公表しました。



また、その成果は高く評価され、2021年3月に本学とMoEYSとの間で取組をさらに進めるための覚書が結ばれました。

この覚書の下、2022年度から5か年の実施計画で、カンボジア全土に健康教育を普及すること、そして全ての小学校に身体測定を導入し、将来的にカンボジア独自の小児の発育曲線を作成することを目指しています。今後はMoEYSやNIEと協力して、カンボジアの子どもたちの健全な成長を実現したいという「想い」を「形」にできるように活動を充実・拡大していきます。

～地域の期待に応え、共に成長しています～

本学は地域に根ざした大学として、地域の特色をしっかりと捉え、社会から期待される強みを持った教育関係者の養成を行うとともに、高等教育機関である大学のリソースを地域に還元することで地域の発展にも貢献しています。これからもグローバルな視点で活動を見直し、より地域に根ざした大学と地域と社会が発展する活動に取り組めます。



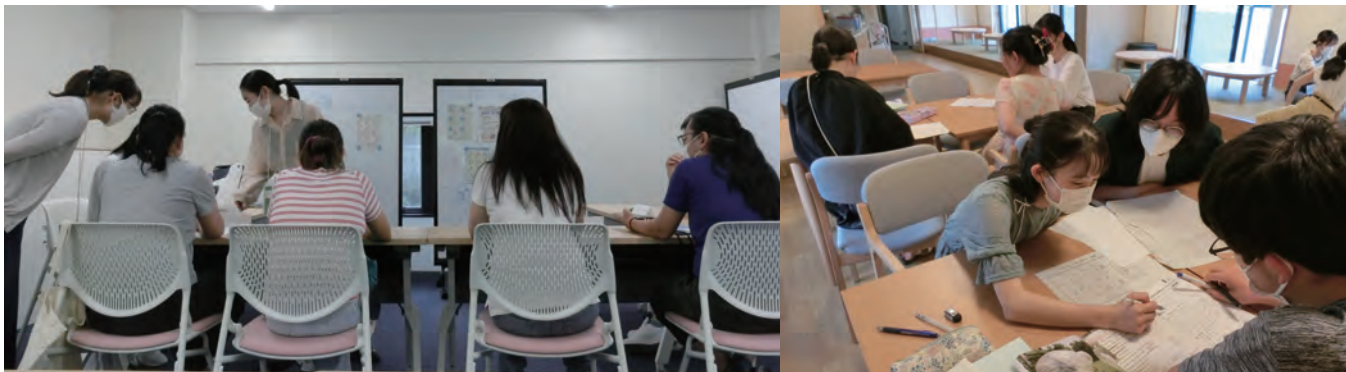
土曜親子日本語教室 - 地域の国際ファミリーに、開かれた大学となるよう取り組んでいます -

本学では、前期と後期にそれぞれ7回程度で土曜親子日本語教室を開催しています。土曜親子日本語教室は、土曜日の午後に本学学生がボランティアとして近隣の外国人住民の方々を対象に日本語の学習を実施しています。2022年度は、約60人の参加がありました。

大人クラスと子どもクラス(3歳以上)があり、親子で来て、それぞれ対象のクラスで日本語を勉強することができます。

大人クラスでは、会話を中心とした授業を行っていて、日常生活の中で使える日本語指導を学生ボランティアは心がけています。

子どもクラスでは、日本語の勉強だけでなく、学校の宿題や教科の勉強も行っています。小さな子どもにはゲームなどを交えて楽しく授業をすることを心がけています。また、勉強だけでなく、本学のサークルや部活動の協力を得て、読み聞かせやダンス体験などの活動も行っています。



科学・ものづくりフェスタ - 科学・ものづくりのおもしろさ・楽しさを実感することで、未来の科学の芽を育みます -

地域の教育現場における科学・ものづくり教育を向上させることを目的に、科学・ものづくり教育推進センターを学内に設置し、学内外で活動を行っています。

センターの活動の一環として、毎年11月に「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」を開催しており、2023年度で17回目の開催となります。地域の子どもたちを中心に、毎年1,000名ほどの参加があり、スライム作り、液体窒素の実験やキーホルダー製作などを通して、科学やものづくりを楽しく体験的に学びます。



また、学生が子どもたちと直接触れ合うことで、子どもに実験・ものづくりのおもしろさや楽しさを効果的に伝えることのできる能力を育成しています。

このフェスタには、本学の教員や学生だけでなく、近隣の中・高等学校や企業の方々にもブースを出展していただいています。

今後も地域や企業とも連携を図りつつ、より一層、子どもたちに科学とものづくりの楽しさが伝わるよう取り組んでまいります。

『子どもの声が 聞こえる キャンパス』を 目指して



一年間で約 **3,000** 人の児童、生徒、園児と
2,500 人以上の保護者、学校教員、学生が参加しました



2022年度「子どもキャンパス」参加者一覧

日付	イベント名	児童等	日付	イベント名	児童等
4/20	附属岡崎小学校3・4年生 遠足	178	10/28	附属特別支援学校中学部 遠足	11
4/26	附属名古屋小学校2年生 遠足	88	10/28	井ヶ谷幼稚園4・5歳児 どんぐり拾い	97
5/8	子どもまつり	249	10/31	星城高等学校1年生 大学見学	160
6/12	井ヶ谷・西境北東子ども会 新入生歓迎会	86	11/19	科学・ものづくりフェスタ	約 700
6/13	附属幼稚園5歳児 じゃがいも掘り	50	11/20	第2回あつまれ!子どもキャンパス	282
6/28	附属特別支援学校高等部1・2年 遠足	19	12/7	東栄小学校1~4年生・ 佐久島しおさい学校1~6年生 交流	70
7/1	附属岡崎小学校4年生 留学生交流授業	30	12/10	宇宙体感・体験プロジェクト	12
7/9	馬術部 ふれあい体験会	22	12/11	冬の子どもまつり	207
8/6	宇宙体感・体験プロジェクト	21	12/11	井ヶ谷・西境北東子ども会 クリスマス会	87
8/7	サッカーフェス	96	12/18	ミックススポーツフェスタ in 愛教大	71
8/9	カプトムシのつかまえかたおしえます!	6	2/5	AUE.Aスポーツ教室	60
9/18	AUE.Aスポーツ教室	33	2/12	サッカーフェス	137
9/28	成章高等学校2年生 大学見学	19	2/18	馬術部ふれあい体験会	11
10/9	AUE.Aスポーツ教室	36	2/21	富士松北小学校2年生 町探検	71
10/24	附属幼稚園4歳児 さつまいも掘り	50	3/11	AUE.Aスポーツ教室	35
					合計 2,994



附属特別支援学校中学部 遠足

2022年10月28日(金)、附属特別支援学校の中学部の1年生3人、2年生3人、3年生5人、引率の先生8人の計19人が本学を訪問しました。

第2回あつまれ!子どもキャンパス

2022年11月20日(日)、第2回「あつまれ!子どもキャンパスin愛知教育大学」を本学で開催しました。小学生282人と大学・本学附属高等学校から264人(学生・生徒232人と教職員32人)、地域の高校から11人(生徒10人・教員1人)の計557人(保護者の方を除く)が参加しました。



富士松北小学校2年生 町探検

2023年2月21日(火)、刈谷市立富士松北小学校の生活科授業「町探検」の一環として「あいきょうてくてくきらきら大ぼうけん!」を本学キャンパス内で実施し、同校2年生71人と引率教員5人、本学の教員2人と生活・総合専修の学生12人合わせて90人が参加しました。

損益計算書から見た本学の特徴

ここでは、損益計算書から見た本学の運営方針について、特に教職員の確保や財務基盤の強化に向けた取組についてポイントを説明します。

【ポイント1：教職員の確保】

本学は、教員養成系大学として、教育実習の場や公立学校の拠点校の役割を有する附属学校園を運営しています。附属学校園は、人件費比率が9割近くあり、このことが比率を押し上げており、大学全体で7割を超えています。この点は、以下のように「教員養成系の中規模国立大学」と「理系の中規模国立大学」を比較すると、明らかに構造が異なることがわかります。

大学運営においては、必要以上に固定費である人件費が積み上がり、経常的に教育経費や研究経費を圧迫することのないように、教職員の確保においては、長期的な視点で経営判断を行っています。

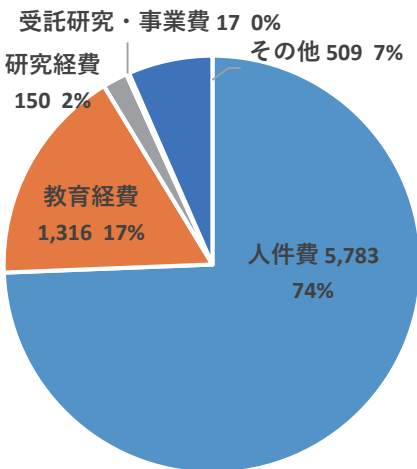
【ポイント2：財務基盤の強化】

本学は、文部科学省から措置される国立大学法人運営費交付金を主な財源としています。平成16年度に法人化して以降、雑益（土地貸付等）だけでなく、寄附金の獲得にも努めてきましたが、今後は、さらに本務である**教育研究を基にした受託研究・事業等、多様な収入源の確保に向けて取り組むこととしています。**

また、第4期中期計画（令和4年度～令和9年度）において、新たに10件以上の寄附金等の経営資金獲得手法を導入することを掲げ、ネーミングライツやクラウドファンディング等、財源の多元化に取り組んでいます。（P18参照）

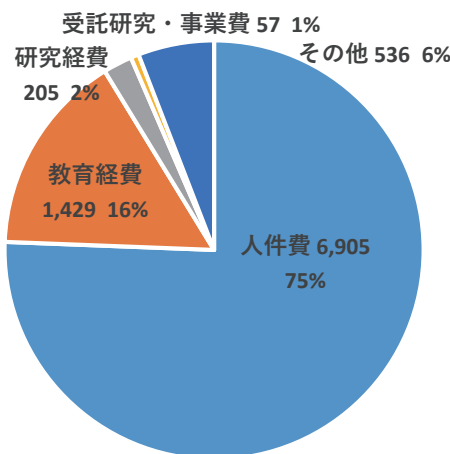
愛知教育大学

（教員養成系の中規模国立大学）



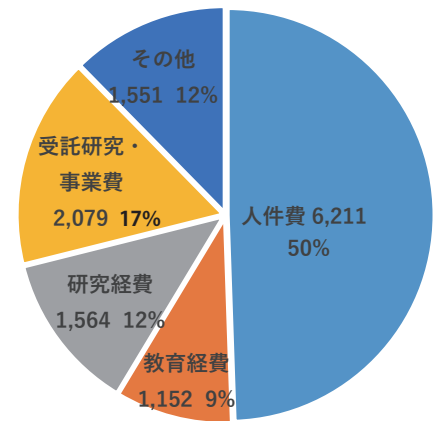
A 大学

（教員養成系の中規模国立大学）



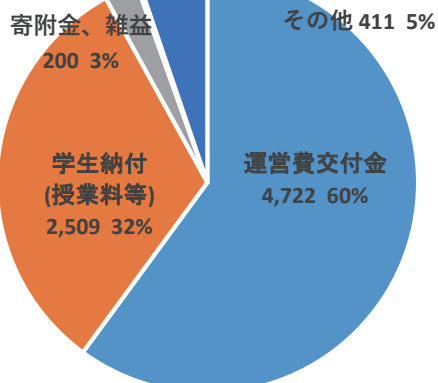
B 大学

（理系の中規模国立大学）

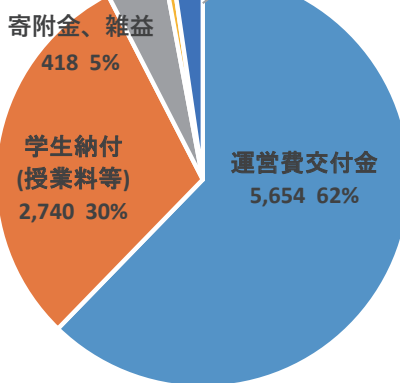


経常経費 (単位:百万円)

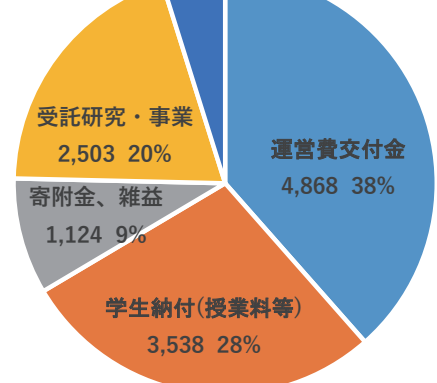
愛知教育大学



A 大学



B 大学



経常利益 (単位:百万円)

愛知教育大学を支える資金

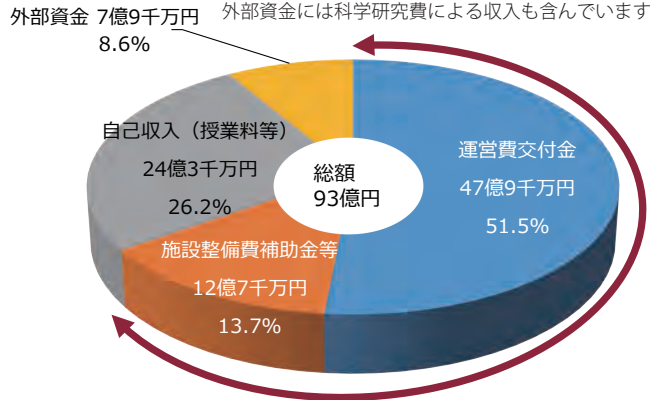
事業を行うに当たって必要な収入は、大きく分けて、運営費交付金などの国から交付される運営資金、授業料などの自己収入、受託研究などの外部資金などがあります。

国庫からの収入

60億7千万円
(全体の65.3%)

令和4年度収入割合

※運営費交付金は前年度からの繰越分を除いています。
外部資金には科学研究費による収入も含んでいます



教育活動（学生支援）

学生一人当たり換算すると

約106万円

令和4年度

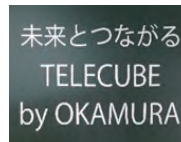
教育経費（人件費、固定資産など）	62億1,486万円
うち学部・大学院の学生への経費	42億2,547万円
学生数（令和4年5月1日現在）	3,993人

外部資金獲得の努力

ネーミングライツを活用した事業

ネーミングライツ事業制度は、本学が所有する資産等の有効活用を通じて、事業者等との連携の機会を拡大するとともに、新たな財源の確保により教育研究環境を向上させることを目的として、令和3年7月より導入しており、現在もHPなどで募集をしています。これまでの実績としては、7件の事業者と契約し、年間約520万円の外部資金を獲得しました。

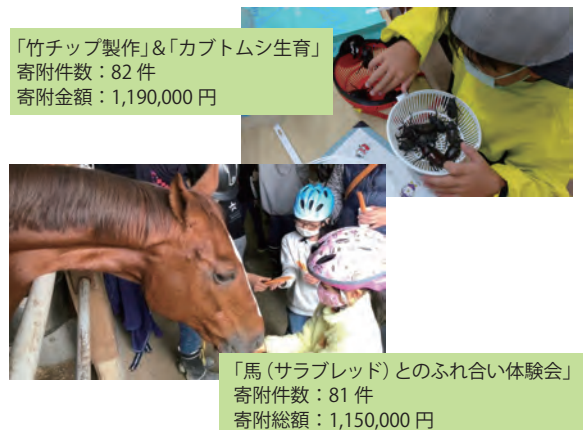
なお、教科書出版事業者3社（東京書籍株、日本文教出版株、大日本書籍株）をはじめ、什器製造事業者（株オカムラ、特定非営利活動法人（くるくる）、一般社団法人（愛知県ボート協会）、情報関連事業者（Sky株）との契約により、外部資金の獲得に加え、デジタル教科書体験コーナーの提供や勉強会の開催などでも教育研究の高度化に寄与してもらっています。



クラウドファンディングを活用した事業

クラウドファンディングは、インターネットを通じて、アイデアや企画を発信し、賛同してくださった方々から資金を募る仕組みです。

令和4年度に実施した事業はいずれも、本学が野田学長のもと推進する未来共創プランの一環で、「子どもキャンパスプロジェクト」として実施する「竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を。」と馬術部が実施する「子どもたちに『馬（サラブレッド）とのふれあい体験会』を提供したい！」の2件で、子どもたちに体験活動を通じた学びを届けるとともに、将来教育に携わる本学の学生たちに子どもたちと触れ合う貴重な機会を提供することができました。



愛知教育大学未来基金

社会に貢献できる有為な人を育成するためには、学習環境づくりのみならず、学生への修学支援や国際交流による多文化理解などが大切です。その基盤ともなる本学の財政は、国の運営交付金や学生の授業料等によってまかなわれていますが、学生の活動支援のためには、さらなる財源確保が必要と考えています。つきましては、本基金への格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

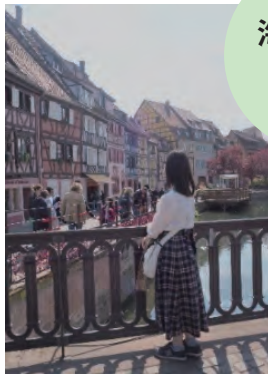
愛知教育大学未来基金による事業

未来基金は、学生の教育研究活動・修学に関する支援事業や国際交流に関する支援事業など学生支援のため幅広く活用しています。



奨学金

学生表彰



海外留学
支援

愛知教育大学
未来基金

留学生
交流支援



課外活動
支援



愛知教育大学未来基金の種類

教育研究基金：平成17年度に創設され、学生表彰、留学生の交流、課外活動等で、幅広く学生を支援しています。

AUE 修学支援基金：経済的に修学が困難な学生を支援するため平成28年度に新たに創設されました。

「奨学金、海外留学支援」など限定した事業に使用しています。

プロジェクト等用途限定基金：特定目的の事業を実施するため、用途を特定した基金です。

リサイクル募金：読み終えた本・DVD・ブランド品等をご提供いただき、その査定換金額が未来基金に寄附される取組です。

令和4年度収支

収入：649件 27,559,400円

(教育研究基金：213件 23,057千円、AUE 修学支援基金：436件 4,503千円)

支出：9,413,573円

(奨学金：1,488千円、学生表彰：100千円、海外留学支援：3,220千円、課外活動支援：200千円、

国際交流事業：2,000千円、その他 2,406千円)

ご寄附についてはこちら→ <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>

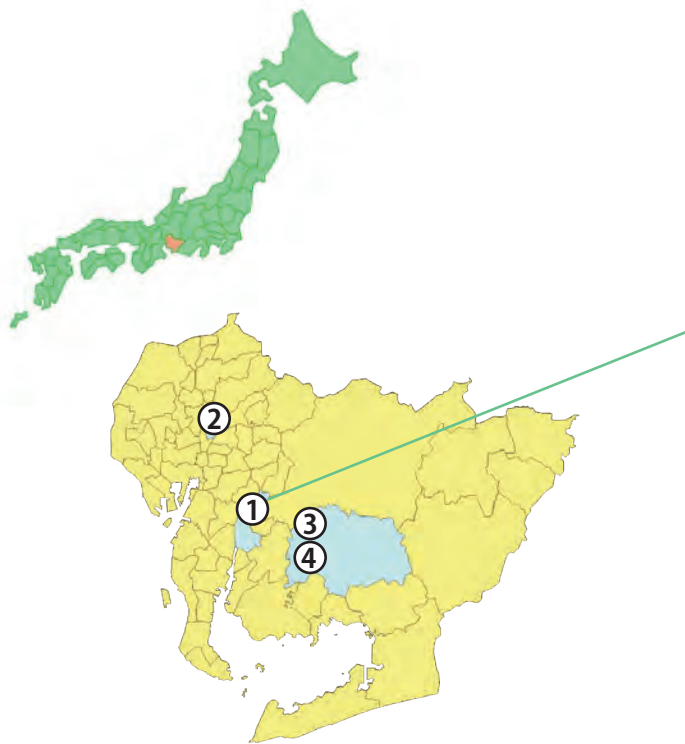
愛知教育大学未来基金に関するお問い合わせ先

広報課 未来基金事務局

TEL：0566-26-2139 E-mail：kikin@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

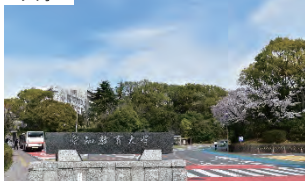


キャンパスマップ



①刈谷キャンパス

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
<大学>



<附属高等学校>



土地	488,136㎡
建物	98,887㎡
構成員	教職員 383人
	学部学生 3,726人
	大学院学生 240人
	専攻科学生 27人
	附属学校生 355人
計	4,731人

②名古屋キャンパス

愛知県名古屋市東区大幸南 1の126



土地	55,228㎡
建物	15,864㎡
構成員	教職員 76人
	附属学校生 1,149人
計	1,225人

③岡崎(六供)キャンパス

愛知県岡崎市六供町八貫 15
<附属岡崎小学校>



土地	64,348㎡
建物	11,730㎡
構成員	教職員 58人
	附属学校生 606人
計	664人

④岡崎(明大寺)キャンパス

愛知県岡崎市明大寺町栗林 1
<附属岡崎中学校>



土地	21,397㎡
建物	6,546㎡
構成員	教職員 28人
	附属学校生 434人
計	462人

その他 研究施設等

生駒野外実習地

土地	7,357㎡
----	--------

全キャンパス

土地	636,466㎡
建物	133,027㎡
構成員	教職員 545人
	学部学生 3,726人
	大学院学生 240人
	専攻科学生 27人
	附属学校生 2,544人
計	7,082人



令和5年3月17日に改修工事が完了した音楽棟



国立大学法人愛知教育大学

発行：2023年10月

大学改革推進委員会研究活性化専門部会

編集：企画課（0566-26-2204）

学術研究支援課（0566-26-2109）

448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

<https://www.aichi-edu.ac.jp/>